1.ディスプレイ表示の説明

1. 感度表示
2. 節電　オン／オフ
3. 魚探知アラーム　オン／オフ
4. バックライト　オン／オフ
5. 電池残量表示
6. 水深表示
7. 魚深度表示
8. 魚群位置表示
9. 海底地形探知
10. 海草(水草)探知

2.操作と設定について

電源のオン／オフについて

①電源を入れる

電池カバーをスライドさせて外し、単 4 アルカリ電池(別売)を 4 本入れます。電池入れ内部の図に従い、電池の方向を間違えないように入れてください。入れ終わったら電池カバーをしっかりと閉めます。

②電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れます。1 秒間、初期画面が表示された後、“ 通常モード ” で起動します。(“ 試運転モード ” で起動するには、電源が切れている間に、電源スイッチを 5 秒間押し続けた後に離します。)

③電源を切る

電源スイッチを 3 秒間押し続けると電源が切れます。

[注意]

・試運転モードから通常モードにするには、一旦電源を切ってからやり直して下さい。

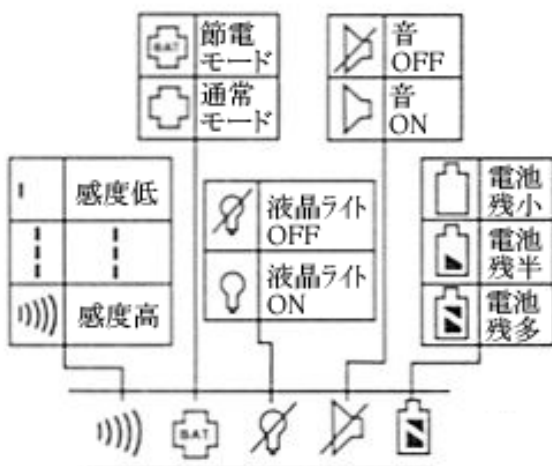
・自動電源オフ

　水深表示が、5 分以上連続して “ ― ” の場合、自動的に画面が消えます。

各機能の設定について

SETUP(セットアップ)ボタンを 3 秒間押すと、感度表示'が点滅します。続けて押すとセットする機能部分が順番に点滅します。

(感度　=>　節電　=>　魚探知アラーム　=>　バックライト　)

そして、設定したい機能の所で ENTER(エンター)ボタンを押すと、その機能設定が出来ます。(※5 秒以上何も押さなければ、自動的に通常モードに戻ります。)

[注意]

・この装置は、5 段階の感度を選択できます。特に、汚れた水や深い所では、感度を高くします。逆に、浅い所では感度を低くします。その状況に応じた感度設定をすることで、より正確に感知することが出来ます。

・バックライトの表示がオンになっている時は、常時バックライトが光っています。この状態は、電池の寿命を大幅に減らします。従って、昼間など、周りが明るい場合はバックライト表示をオフにし、節電するようにして下さい。
バックライト表示をオフにしている場合は、ボタンを押す度に、3 秒間だけバックライトが点きます。

・長時間使う時や水面が穏やかな時には、電池の寿命を延ばす為に、節電モードを使うことをお勧めします。

・通常モードの場合、電源ボタンを押すと画面が元に戻ります。

3.魚と深度を測る時

水深を測る

本体の電源を入れてソナーセンサーを水の中に入れた後、画面右上に測定した数値が表示されます。

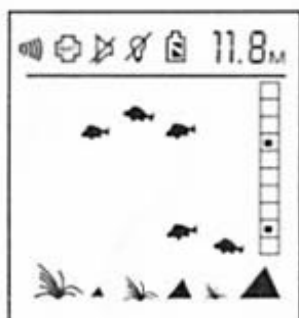
水深が、0.6m 以下や、40m 以上の場合は“ － ”が表示されます。

[注意]

・“ － ”表示は、極端に水質が悪い所や、海底に泥が深く積もっている場合などでも表示されます。

・この製品は、音波を使います。音波は水を伝いますが、空気を伝うことは出来ません。

・魚群探知機は、ソナーセンサーと水の間に小さな泡があると、正確に測定できないことがあります。十分ご注意ください。

魚群の表示

センサーが魚を探り当てると、画面に魚マークが現れます(上図)

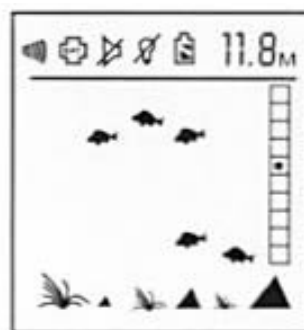
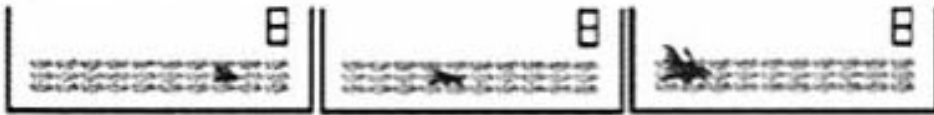
画面右上の柱状の表示は、直近の情報を表します。この表示は新たに探知する度に左に移動していきます。魚のマークは 5 秒毎に変化します。

[注意]

・魚の表示は、一定間隔で右から左に移動します。この動きは実際の魚の動きを反映するものではありません。

深度計を使って、ソナーセンサーからの魚の距離を測定します。深度を 10 段階に分けて表示し、魚のそれぞれの位置を表します。

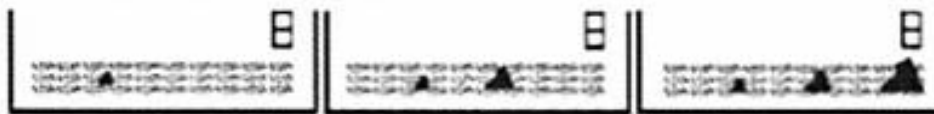
(例)

海底の深さが 20m の場合、上から 5 番目の枡の魚マークは、水面から 10m の所に魚がいることを意味します。

海草(水草)探知

（図１）　　（図２）　　（図３）

(図 1) 草(水草)が最も低い状態を表します。

(図 2) 草(水草)が中程度の高さの状態を表します。

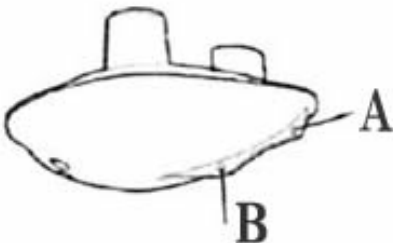
(図 3) 海草(水草)が最も高い状態を表します。

海底地形探知

（図４）　　（図５）　　（図６）

(図 4) つの岩が表示されています。これは、海底に、小さな岩があったり、地形が平坦ではない状態を示します。(隠れている魚を釣るには悪い状態ではないと思いますが、その地形の形状の為、魚がたくさんいないことが予想されます。)

(図 5) つの岩が表示されています。これは、海底に、中程度の岩があったり、それらが散らばっていることを示します。(隠れている魚がたくさんいることが予想されますが、魚を釣り上げるには、時間がかかるかもしれません。)

(図 6) つの岩が表示されています。これは、海底の限られた範囲に、大きい岩や切り株、木片、隆起した岩などがあったりして、地形が複雑なことを示します。

4.ソナー

釣り糸に取付けウキのようにしてしようにして使用する場合

- 通常は A の穴に糸を通し、ウキのようにして使用します
- 固定ウキのように使用する場合には、B の穴を使用してソナーを釣り糸に固定してください

注意点

A の穴を使用する場合、釣り糸を痛め易くなります。糸が切れてしまうとソナーが海上に流されて回収できなくなる可能性があります。この危険性を理解した上でご使用ください。

※　出来る限りこの方法では使用されない事をお勧めします

固定ウキのようにソナーを使用する場合、5.7 グラム以上物（釣針、おもり、エサなど）が下に繋がれていると、ソナーが沈んでしまい電波が届かなくなってしまいます